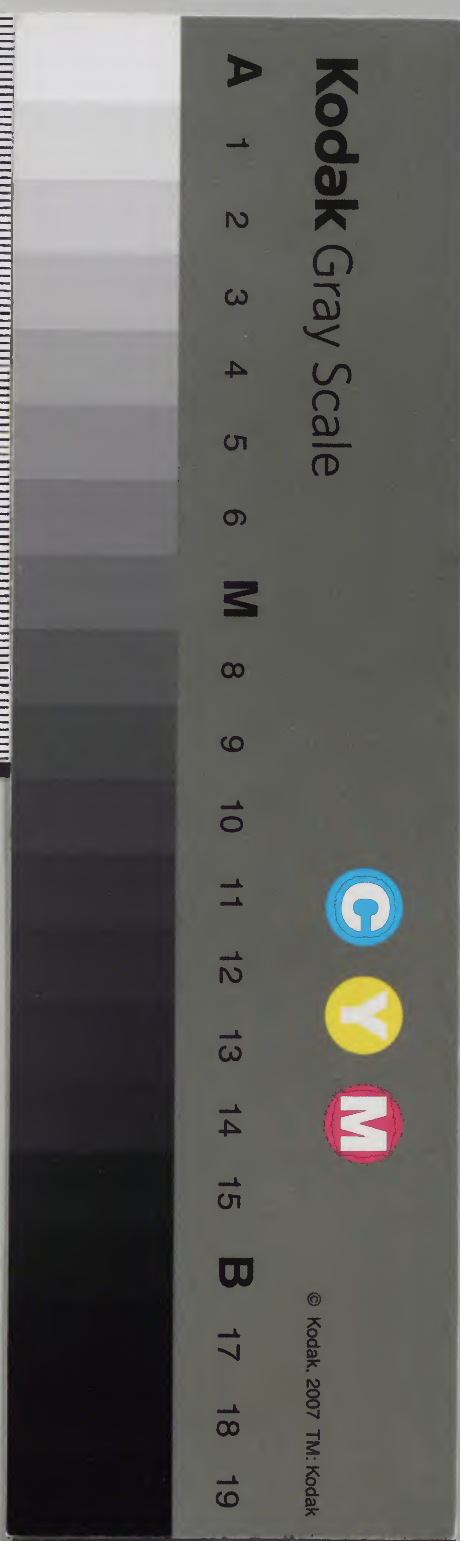
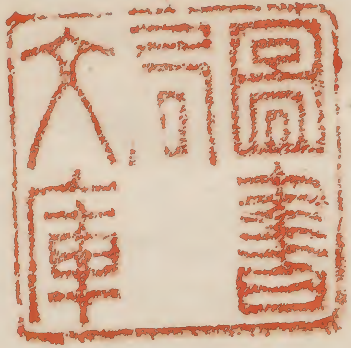


國鑑

四上

庫文閣内	
内閣文庫	
番號	和 28392
冊數	11 (4)
函號	185 4





國鑑卷之四

周 中 春秋の世



平王諸侯より取立てられし王位に継ぎし一より
幽王に礼を祭して都迫き所を戎狄より
逼られし西周に於て洛陽に東乃方
洛陽より都を洛陽に遷し故都岐豊の
地は五柄次第に切取せよとて秦に襄公より



充^{あて}行^{ちか}い^{ちか}ま^{ちか}晋^{しん}乃^の文^{ぶん}侯^{こう}よ^も拒^{きよ}毫^ご酒のきう弓^{きう}矢^やと

賜^{みづ}り^り衛^ゑ乃^の武^ぶ公^{こう}ハ^ハ公^{こう}よ^も昇^{しょう}進^{しん}あり^り鄭^{てい}乃^の

武^ぶ侯^{こう}ハ^ハ司^し徒^と乃^の言^{ごん}ハ^ハ公^{こう}よ^も昇^{しょう}進^{しん}あり^り鄭^{てい}乃^の

勸^{かん}賞^{しょう}と^とを^を関^{かん}元^{げん}ハ^ハ中^{ちゆう}衛^ゑ此^{こゝ}武^ぶ公^{こう}を^を名^な

き^きく^く不^ふ賢^{けん}君^{きん}小^{せう}く^く年^{ねん}九^く十^{じゅう}五^ごと^と中^{ちゆう}に^に急^{きゅう}急^{きゅう}と^と

あ^あく^く次^じ九^く朝^{てう}よ^よ何^{なに}く^く九^く節^{せつ}の^のもの^{もの}ハ^ハ朔^{しやく}夕^{しやく}

我^{われ}戒^{がい}よ^よ我^{われ}と^と老^{らう}き^きり^りと^と思^しひ^ひま^まり^りを^を

群^{ぐん}臣^{しん}よ^よ頼^{たの}む^む所^{しよ}何^{なに}せ^せ又^{また}懿^い戒^{がい}と^とい^いふ^ふ

今詩經にあり
大推抄の詩あり

戒^{がい}乃^の詩^し此^{こゝ}り^りて^て常^{じょう}よ^よ剛^{こう}小^{せう}く^くく^くを^をせ^せけ^け乾^{けん}

か^かん^んど^ど世^{せい}に^にあ^あり^りが^が一^{いつ}死^しん^{しん}なる^{なる}も^も一^{いつ}世^{せい}乃^の

人^{ひと}と^と膚^ふ聖^{せい}武^ぶ公^{こう}を^をき^きり^りと^とみ^みや^やと^とわ^わか^かり^り

賞^{しょう}德^{とく}河^かを^を一^{いつ}く^く今^{いま}及^{およ}此^{こゝ}を^を公^{こう}と^と許^{もと}り^り

い^いつ^つと^とや^や何^{なに}も^もん^ん家^けよ^よ何^{なに}も^も何^{なに}も^も上^{じやう}に^に

昇^{しょう}進^{しん}有^あり^り一^{いつ}く^くを^をめ^めて^てと^とき^きれ^れ史記よ武公は兄と
弒すと記せるハ司馬遷

大^{だい}半^{はん}は^は取^とり^り一^{いつ}く^くを^をめ^めて^てと^とき^きれ^れ史記よ武公は兄と
弒すと記せるハ司馬遷

大^{だい}半^{はん}は^は取^とり^り一^{いつ}く^くを^をめ^めて^てと^とき^きれ^れ史記よ武公は兄と
弒すと記せるハ司馬遷

大^{だい}半^{はん}は^は取^とり^り一^{いつ}く^くを^をめ^めて^てと^とき^きれ^れ史記よ武公は兄と
弒すと記せるハ司馬遷

苑中に造る出されし豊鄙乃都ハ
戎狄より志り建宮殿廟社と乘生茂り
昔心田畑と荒をて道乃人を流せき
河くふ教者振あり多教乃をなす次
その河より移る内父幽王と弑す賊乃
首すくこんありきれ誠り藪小し孫
戈残枕よすや平王君臣一日と安き
んはたを海よりと戎狄ををらる

境土と慢ぢんと又内父此讒言申候を
征伐河くんとおひしを河只安閑と
世を治りありをたりる急りつらなほ
涉政ありし王威日小す一木とらる
共主として天子や中名をうり小を號令此
天下に治るをいふ事ありき程れく
春秋乃世よ入る
平王四十九年魯の隠公元年也
孔子春秋つりよする母年より筆と
起し敬王三十九年魯の哀公十四年まで二百四
二年此と記し多是と春秋乃世よ
諸侯恣よ

軍記して互に征伐し又はは其君と弒し
子其父弒弒する者何りしうも天子が祭
せぬしうあつて事と叶し何り夫れ抑
武王此時孟渚の會せし諸侯八百頭と記し
又其後新し不願賜りし功は親戚と
若干なり昭王の頃孝王威日とに衰し
はしき幽厲乃みされ出来り教ふされし
諸侯恣よ人の國と切れしや春秋の

見元し十二諸侯 魯齊晋秦楚宋衛陳蔡曹鄭
燕吳是と春秋乃十二諸侯也
實ハ十三ヶ國なれと吳は夷狄
あれはて數の内なりいさむ
びんとその類とかがしりしとて十頭小は
過るりしをてて王室に政令諸侯よ及を
よりしりし會明也と諸侯みりし會合也
牛乃血成すりて指言とて一味同ん
して王室とあつてを叛亂と謀伐せん執と
約しける時よりして兵は徳賢なる

遷都ありて王業乃基ありて大切の
岐豊の地を秦に賜りけるをうてき
果し秦地を得しう祭次身に
兵力強きなりて子孫よむり天下此
主とも成る心な祭され城都の形勢
封國乃分域天下此強弱安危のみ
大事やく同國乃人の深謀遠慮と
りく約合と考へ配るは是一事と

子孫のかりとめに改しより國勢乃
衰と終よ七と括り古今其例を
遷都より必自に衰へ終よ三は足踏車
町をりしこれ八畝とおされて遷都を
東坡とりてくひん

在位五十二年小一
君弒する者四
曹の穆公其君の子孫と楚乃武王は
其君此太子と晋の潘父ハ昭公と晋乃
曲沃鄭ハ
孝公と弒し
沛孫桓王
即位す
留と鄭の莊公

魏公と左右の卿士をありて政務ありて
王親公のかりりあひりれ、莊公の
所りしことを父祖の志とほりんとあり
祖の桓公、南王に死し父武公、平王と
武公、平王とより立て、桓公の
ふせり、正のり、共、後、終、は、莊公、乃
政務、成、る、免、ら、ま、さ、し、六、莊、公、來、朝、せ、り、
即、ち、た、れ、と、患、し、て、王、自、出、馬、ま、り、
鄭、と、追、討、あり、繻、葛、と、い、ふ、所、の、大、は、

敗、つ、て、王、正、射、さ、せ、む、し、り、は、ま、
お、ま、さ、ま、ふ、正、色、と、見、え、る、ゆ、え、に、
陣、を、り、か、あ、て、引、え、る、ゆ、え、に、
一、日、や、河、り、ま、ん、夜、小、介、れ、は、王、に、
使、あ、り、玉、體、と、い、ひ、氣、を、せ、り、
時、王、室、衰、え、り、と、い、ふ、も、
諸、侯、乃、王、を、
と、蔽、始、り、と、い、ふ、も、
春秋、以、後、の、如、く

小、は、あ、り、次、又、桓、王、御、所、は、創、り、あり

中平より下の軍一も勇ましく
あれ、軟弱の主といふ處より次
河東の北時義理正しき軍記一
玉もんよ諸侯乃下知よ竹魯らせ
さほりやまつふか、家勇りと叛乱と
討し夷狄とさういもらんよ中興乃
功を川海しき小と河く決然と
偏頗の所、さうしてまこれ志あは

莊公城歎よと川と詮なき軍一も
事及あさう骨折とや中絶一

楚子熊通随軍よりかきて天子に
我と尊しと責まれ、随に祭あきり
さ由と中絶されと御ゆるはまことあり
け禮ハ吾祖鬻熊ハ文王此師ありとて絶よ
とく武王中と稱し、武王祖王在位十二年
小一も崩れ此時代より君代絶せざる者五

衛の州吁ハ桓公と魯に桓公ハ隱公と宋乃魯ハ莊公と
陳陀其君の太子汝晋此曲沃伯稱ハ小子侯と弒ヒ子莊王

名 之者南ハ初桓王王子克と寵愛ありて

周公惠有ハ多のふハ公ハ辛伯諫ク

寵妾乃依之ハ庶子ハ嫡子ハ

事及乱の本ハ作とヤルハ周公ハ

之を指し王子克とりり立んセシ

辛伯そのより五にヤテ周公を殺シ

王子克ハ燕乃國人と出奔ハ魯に莊王在位

五年小して崩ル此時代ハ君弒セハ

三 鄭の高湫彌ハ昭公と齊の無知ハ

襄公を宋に萬ハ閔公を弒ス 國と滅ス

初て諸侯ハ霸スハ在位ハ五年小して崩ル

此時代ハ君と弒セハ者二 鄭の傅瑕ハ其君乃子

緡と 國と滅セハ者二 遂ハ齊ハ鄭ハ 儀と晋此曲沃伯稱ハ其君

王子頹ハ寵愛ありハ太子とせんハ

之を弒シ國を共師ハ

惠王即位わりて蒞國^{まの}をどり河^か又
邊伯子禽祝跪^{へん}詹父等^{あき}の賜^{たま}地^ちや館^{かん}も
棄^うる^るひ^ひ一^一六^六人^人乃^乃者^者う^うら^らみ^みあ^ある^る步^歩
王子頹^{たい}成^成り^りを^を衛^{ゑい}燕^{えん}の^の兩國^{にこく}をか^かて^てう^うひ
謀^{まう}叛^{はん}と^とを^を記^きし^しは^は惠^{ゑい}王^{わう}を^を向^{むか}う^うは^は温^ん
室^{しつ}の^のふ^ふあ^ある^るよ^よ出^い奔^{ほん}し^しの^のふ^ふ衛^{ゑい}燕^{えん}乃^乃兩國^{にこく}王子^{わうし}
頹^{たい}と^と立^たて^て天子^{てんし}と^との^の鄭^{てい}伯^{はく}か^かを^をと^と國^{こく}つ^つけて
軍^い記^きし^して^て親^{しん}叙^{しよ}を^を牒^{てつ}し^し合^あ王^{わう}と^とむ^むら^らし^して

五^ご城^{じやう}よ^よか^かつ^つて^てい^いま^ま系^{けい}る^るは^は王^{わう}子^し頹^{たい}並^{びやう}に
蒞^し國^{こく}等^{とう}と^と殺^{ころ}し^し周^{しゆう}礼^{れい}を^を平^{へい}け^ける^るま^まは
勸^{くわん}賞^{しやう}と^とを^を皆^{みな}加^か恩^んの^の比^ひ賜^{たま}り^りて^ては^は鄭^{てい}伯^{はく}
王^{わう}成^{じやう}請^{しやう}し^して^て時^{とき}般^{はん}華^か鑑^{かん}と^とて^て后^{こう}の^の巾^{きん}帶^{たい}
乃^乃か^かう^うり^りて^てす^すは^はその^の成^{じやう}を^をい^いら^らる^る其^{その}後^ご
親^{しん}叙^{しよ}を^を給^{たま}り^りて^てを^を中^{ちゆう}に^にて^てし^しる^る爵^{しやく}の^の益^{えき}を^を
考^{かう}ふ^ふて^てう^うり^りき^き鄭^{てい}伯^{はく}是^{こゝ}に^にう^うり^りて^て王^{わう}成^{じやう}怨^{えん}を^を
ほ^ほい^いら^らせ^せる^るは

凡人君乃人よ物給らるるなり其
富有に長し金玉珠璣故に其
心よりくくんとあらんよを甲乙
ありとを思ひを海を次共けりよ
何れもさるるに後りる事なりや
あらん何れもさるるに面目にあらば
君乃賜の蔽しこれに甲乙輕重に
う祭て末代乃榮辱を辨り色し

何れもさるるに後りる事なりや
あらん何れもさるるに面目にあらば
君乃賜の蔽しこれに甲乙輕重に
う祭て末代乃榮辱を辨り色し

在位二十六年ふし其崩せらるる此沛代
君と弒する者三
楚の成王其君堵敖と曾其慶父ハ
共君の子般及閔公を弒す
耿霍魏鯨虞ハ晋
子襄王鄭立あふ
強ハ楚ヲ滅せり

此時齊の桓公葵丘といふ所にて諸侯と
會盟し、もれは主文武乃昨とて文王武
王と祭を備ひし供物とて給り、且
是は尋常ありぬ重記を備ふの事然
侯伯ありん人給ては給はるる事
周元一桓公の孫太公望十代乃孫あり初
國雅をさげし其臣鮑叔と具し魯に
國一かたあり後其父襄公薨して國一

かたり家法あり莊王十二年鮑叔諸侯を覇し
おのひとありぬ公子糾乃臣管仲をあれ
比下とせしし管仲と名出し仲父と
ありめて國政を執りし其時魯の兵力
強くなりし鄆國をたしこれに對
入國乃初柯をいふ所魯と會せし時
曹沫といふ魯の大將桓公と壇乃上し魯
取るところと首とてし魯に侵し取らる

魯乃地をうへへてさきまふるふくやとせられ
いっめとよは約せられしことを腹をこめて
曹沫の首と刎地とを返せしと有し或
管仲の約とせし人信を失ひしよりゆめく
然るにこれとせられし實とせし約乃
こころくせられし事なり
僖王 九年 諸侯思ひ付者
多かりけりさうて甄乃會して始て諸侯
霸ありしと有し
僖王 三年 公戎と成り燕と救ひ

惠主 魯乃哀姜と嫁し
公子慶父に密通して魯は
君位を奪れり惠主十七年
楚とわたりて包節れ貞をせしり
責の石陵の盟とあり
惠主 二十年 首止に會して
王乃世子と定め
惠主 二十二年 此年葵丘に會せり
九とて諸侯と會してつひ天子と
匡とて天子にかたりし諸侯の進道伐
虢と夷狄とをこころひて王室とせしり
を公有し天子と有し

寵命と尊り未代小五霸乃首と称也
少教りい皆管仲の助けとせし力と我
國元一かきて葵丘乃會に桓公驕乃也
ん元少れはも諸侯叛るの有りとも
去祖は管仲死せし時襄王七年豊才易牙
もん堂り少諂佞乃者と月ひ女色り
好まり小人れ如く好る者小人まで有
りてに國政乱まると盡せり一浮諸公子

國争ひく之ヶ月の間遺骸と元収めんぞ
す教りのもさうり一戸此外まくと
去れもい少教りんと漢より記事と色
なりき

かくさうり威力は天下と動せし桓公と
管仲の死せし後、妻子とて分割し
得てしてか系ん若しきと名小山
成り教り少輔佐乃臣、實もやんと

な紀初めはあり多敷

齊は桓公薨して後天下に盟主ありしは
宋の襄公盟盟主として之れを
とらへし事とありしは宋と齊と
おとえんと思ふ心のまじりしは五霸乃敷
よは入るる事襄公の微子啓十五代乃
後亂なり成王の時微子と宋に封して事
陳大舜 夏禹の後杞乃後の二回とあり帝王の治めしは

としてあき爵上公よあされ三恪客として天子を
賓客は禮のく重しありしは家礼あり
襄公の庶兄と公子目夷といふ賢徳ありて
襄公初め四と譲るとありしはとと交
はりしは襄公四取くと目夷は相也
四政と領けしは襄王元年初齊は桓公其子
孝公は襄公に頼りしは桓公薨して難
起りし時孝公宋より出なれしは襄公是と

守多んとて齊の軍を亂しんふ所なく

一戦して討勝考公に回さるせけき襄王 十年

大國は勝軍をとりしにきりひしと

東國は諸侯滕鄆曹邾らの小國と

切從人せられ襄王 十一年す決くきりひしは

きりきん中國は會盟主とらんとの企

巧り公子同夷練めりきことと見ひすして

于孟の會せんとて楚よを由云いひかりるれは

楚は成王よ怒りしと共儀なりは

死せきとてきんつとていひも氣なりし

返答ししを會盟の時依勢とてせん捕と

襄公は生捕と宋乃國と推考は執君乃

生捕らきしとる上はし支小と及らるる際さい参さん

け執りしと改りて藩をいふ所を諸侯と

會し襄公は反ひしとてきり襄王 十三年

鄭伯乃楚よ朝せしふりしとて鄭に伐入

杞がしきれの叔帯齊よか毎以共後杞后
とて秋を孝入内有し后とありしを備ひ
しは杞人王城うらみ氣く少叔帯の
方人して周よきつと入りり王うらみ
鄭よか毎しのみ杞人終よ叔帯に王后と
杞をせけ執襄王諸侯よ使立く頼思
う觸きまひりれ秦の穆公催促り
あつとあり河よ出陳ある晋乃文公

おとらうしと池心ひ叔帯を殺して王城運し
備いしせあり

周乃冲運れめてこかりし初冬發と
きち身よ文けくもら回譲むひし

人よををしそりし久世乃末の事は
二代并續く
王子類襄王よは太叔帯 兄弟

臣帝ひき備ふ周室乃冲運の禮を
うしそきれかふ事なれはふや

人よ仰き頼をきてまはされしをらん
御所此都て人あのみきまふ事とて
儀すしき

文公名 重耳 周乃成王此御所唐叔虞十四代

乃孫好唐叔十代の後と文侯仇といふあまはれれり切立より

其孫武公晋侯四頭ありあり晋侯叔と曲沃といふなり分初あり 叔と殺して

其父獻公驪姫也

いふ愛妾乃諂言とききて太子申生とて

多此連枝と殺せし文公辛き命助りて

秋乃國に出る惠一王 二十三年 十九年同國を流浪

有しと秦の穆公取立く國よか下入ら

襄王十六年 時に年脱よ六十二歳よ及ひ又流浪乃

間色これ險阻艱難と嘗め國よ

とも民の情偽とと妾を初り又十七乃

時が架付副系とて趙衰執偃外祀

なせしふ人乃賢人ありし入國乃初

政道可とらりて好りき周乃内史興

勅使より付て晋に來りしはかへり來りて
文公に王命を敬ひ禮儀強ふありしを
執とら奏そう聞きし禮れい孔こうは盟めい主しゅなりしを
執とら中ちゆうの執とらがしとて子こ帶たいり礼れい出しゅ來らいたりしを
執とら偃えん復ふくと大だい事じに時じ節せつ小せうし諸しよ侯こうを
はあらしむ王室わうしつよ未み公こう志しを海かいらんよあく
かして下したを執とらりしとて文ぶん公こう實じつしとて
今いま度たび乃なり功こうとて之これらきと執とら勸けん賞しょうせとて

温ん原げん攢ざん茅ぼうは田でん伐ばつをうりし原げんの人
版ばんせりしを三日さんじつ乃なり兵へい糧りやうをそと陳ちん觸じゆく
して原げんに城じやうを圍めぐりて三日さんじつの好こうと
城じやう落らくたりしと六ろく勢せいありあんとし昔むかし備びひと
物もの見みの者もの敵てきは隊たい衆しゆをんせりて文ぶん公こうは信しんを
今いま惜おぼし侍しをんとし文ぶん公こうは信しんを
固こ乃なり實じつあり三日さんじつを觸じゆくる辭ことばのありしは
わがかりんそとて軍きん退たいけられしは

於て原に敗りけり 襄王十七年 此時楚の成王其

臣子王として陳蔡鄭許四國の諸侯を催し

宋に四よ取掛く是を救ふんとて城濮と

以て處ふと大戦あり一戦あり討勝と共

生捕分捕王よをりし大輅戎輅形弓

旅らめんと賜ありて侯伯とをえられけり

文公又踐土といふ所へ行宮造りて王城

近人系り皆九頭乃諸侯引連と朝覲の

儀式行われり 襄王二十年 在穢九年の間いふ所を

忽らして王室に奉公あり而薨死せられ

跡 襄王二十四年 其子襄公績と盟主とをあらはせる

齊桓晋文の記りし柯の會也原乃

軍とに信を失いしよりし祭諸侯は

思ひ付りし誠は信の固乃實也也

何んなる自古皆有死民無信不立とて

食と信と誠とけりし一とて元と食とて

命傳りふと信とは先ふ慮うと次と
孔子も終らまはくぬいあまもし文公は
園門乃月治りまらりて家道正しく
子孫此是りし毎あうし死に
文公の薨せられほも威と夫の
績と盟主より子植公ハ園門治り
家道礼と植公乃尸いし寒さる角に
五公子固争ひて立是となりりてハ

植公乃跡ハ二つを頭めりる事ハ叶ハ
りし此は子孫乃為よ天下を
おとさん威力やれりん道は社席
帷帳の内にとりんすめ

其後数年ありて秦の穆公ハ金鼓と治りて
西方に侯伯とをたせける 襄王 穆公 名 好 二十九年 其
遠祖ハ伯益とて舜乃后なり其末孫と成子
ハ周乃孝王の時附庸に封せらるる其

曾孫襄公卒王乃時岐豊の地ふあり
大冢西戎と切あつて大國とを能り
きりけり穆公はを八代孫とて國元
此時虜乃國より百里奚とて不賢人あり
晋の獻公虜ととせし時 惠王 二十二年 生捕てその女
穆姫と穆公は嫁せんとてはきてやりし六
穆公よりこの國政と頼めあひけり百里奚又
蹇叔とて不賢人ととせし二人とて國政を

きりけり 二十二年 行は秦國初て志と諸侯よ
得し 惠王 二十二年 晋獻公卒して國みられし六
婚姻乃り 惠王 二十二年 思ひまゐらん惠公文公二代
よく取立とて國法を 惠王 二十二年 飢饉に
震 惠王 二十二年 惠公こまゝに 二十二年 此恩も思ひ
秦の饑饉と幸やとせし 二十二年 韓原小て
切つて 二十二年 惠公と生捕し 二十二年 此比純と
重し 二十二年 襄王 七年 生捕て 二十二年 陣者

度つせいこつせいにつせい加勢つせいがして楚とをこす 襄王二十一年

踐土翟泉の會及 城濮の戦より
鄭を圍つ一軍 王子帶つんをつん勸つんす

襄王四年 又由余ちゅうよとちゅうよ戎ちゅうよをちゅうよ索ちゅうよ出ちゅうよするちゅうよ賢者ちゅうよとちゅうよし

襄王十七年 今度此

寇令有いけい勢いといてい圍いえい一蹇い叙い魯い見いを

きいついといてい孟い明い視い等いといりいてい鄭いを

ういせいけい教いういとい告いらいふいとい川い取い所いと

殺いらいふいとい晋い乃い襄い公い乃い四い立いれいと

之い頭い乃い大い將いをい捕いまいせいれいるい有いらいといて

皆い己いのい諫いきいりいはいとい一過い小いといかいらいふい美

大將いをい恥いあいらいふいといてい孟い明い視い等いら

皆い思いひいまいしい次い 襄王四年い目いをいやいりいてい孟い明い視

等いといてい河いとい浚いとい舟い法いをい守いるい必い死い乃い軍

かいしてい晋いをい切い入いりいてい其い鋒いをい忍いん

出い合いんいといすい孰い者いといあいらいずいとい不いといにい王い官

郊いをいんいといしい所い城い切いらいずいといあいりいくい也

推^{おし}行^ゆく^こ殺^{ころ}す^こ戰^{せん}骨^{こつ}と^こ取^とり^こ埋^うめ^こ之^こケ^こ日^こ乃^こ
喪^{そう}儀^ぎ取^とり^こ自^{みづか}此^こ過^{あやま}と^こ末^{すえ}代^{だい}の^こ戒^{かい}め^こに
せん^こと^こ秦^{しん}拮^{せつ}言^{げん}と^こい^こ文^{ぶん}化^かと^これ^こま^こ進^{しん}ん^こ國^{こく}人^{じん}
感^{かん}流^{りゅう}と^こ流^{りゅう}け^こ流^{りゅう}襄^{じやう}王^{わう}二十八年カ^こ德^{とく}業^{ぎやう}武^ぶ畧^{りやく}
河^かり^こと^こ五^ご霸^ぱ乃^こ才^{さい}下^かと^こい^こふ^こ盈^{えい}と^こ一^こ
賢^{けん}君^{くん}なり^こま^これ^こい^こり^こ小^{せう}と^こ武^ぶ威^い乃^こ中^{ちゆう}國^{こく}と^こ
か^こ少^{せう}と^こ一^こと^こと^こ僅^{けん}西^{せい}戎^{じゆう}と^こ霸^ぱと^こ一^こ
乃^こよ^こて^こ中^{ちゆう}國^{こく}乃^こ盟^{めい}主^{しゆ}と^こ成^{じやう}濟^{せい}と^こり^こし^こる^こ
其^こ卒^{そつ}す^こ時^{とき}襄^{じやう}王^{わう}奄^{あん}息^{そく}仲^{ちゆう}行^{ぎやう}鍼^{しん}虎^こと^こ子

其^こ卒^{そつ}す^こ時^{とき}襄^{じやう}王^{わう}奄^{あん}息^{そく}仲^{ちゆう}行^{ぎやう}鍼^{しん}虎^こと^こ子
之^こ人^{じん}此^こ良^{りやう}臣^{しん}と^こ殉^{じゆん}死^しは^こ法^{ほふ}進^{しん}と^これ^こ心^{しん}下^かと^こ
り^こ天^{てん}人^{じん}に^こを^こあ^これ^こけ^こふ^こや^こと^こを^こ人^{じん}
中^{ちゆう}ある^こと^こ襄^{じやう}王^{わう}在^{ざい}位^い二十三年小^{せう}と^こ一^こと^こ西^{せい}戎^{じゆう}と^こ盟^{めい}主^{しゆ}と^こ成^{じやう}濟^{せい}と^こり^こし^こる^こ
此^こ沛^{はい}代^{だい}に^こ君^{くん}弒^しする^こ者^{しや}四^し晋^{しん}此^こ里^り克^{こく}と^こ共^こ君^{くん}乃^こ子
昭^{しやう}公^{こう}の^こ孝^こ公^{こう}乃^こ世^せ子^しと^こ楚^その^こ
穆^{ぼく}王^{わう}の^こ成^{じやう}王^{わう}を^こ弒^しす^こ四^し國^{こく}弒^しする^こ者^{しや}五^ご美^み齊^{せい}及^{じやく}卓^{たく}子^しと^こ齊^{せい}乃^こ
子^し頃^{こう}王^{わう}と^こ立^た襄^{じやう}王^{わう}の^こ喪^{そう}に^こ魯^ろ乃^こり^こ使^し者^{しや}氣^きと^こせ
し^こる^こと^こ一^こと^こ毛^{もう}伯^{はく}と^こ一^こと^こ太^{たい}史^しや^こり^こて^こ金^{きん}を^こと^こら^こせ

既終一車河り王者れあふ向ふ處に
車くはそ人の中多れ此時晋の襄公盟主
ありし事とすくしき事とすり此れ
鄭と救ひ新城に盟しるんと流石文公此
作風ありあり頃王在位六年にいと崩れ
子匡王名ハ立魯國乃中流より祭て瑯公乃
母と魯よか下一遣るをきし初單伯一と
齊侯に勅定行りたれも勅命有り違ふ

乃ちあつ次勅使單伯と捕へりり此時
晋の靈公無道なり一六晋に覇業衰へ
楚乃莊王に先越きてて見えり匡王
在位六年少くして崩れ此時代に君と執り
者六 齊の懿公ハ瑯公と宋ハ文公ハ昭公と魯乃公子遂ハ其
君の子赤及視と首乃太子僕ハ紀公成晋の銷穿ハ靈公と執り
齊定王瑜名ハ立魯向ふ楚乃莊王兵力日く
盛小し多陸渾乃戎と伐し一祭武威と
中國に示さんそ洛陽までと一六

勅使せし王孫滿とて給りける莊王孫
滿小周乃冲寶九鼎乃大小輕重と同され
王孫滿とて一ぬ者小く王者の徳は社何々の
鼎より多し(きり)且成王九鼎と敬き定め
き海いし時王ハ二十代年ハ七百年動きは
何しと下れる面はんえふはそ周の徳衰へ
多りると天命しよる改まらば鼎の大小
同しきりも敬くに書され莊王怒りてそ

帰しける其後莊王鄭乃城中に推寄
きれハ晋ハ成公加勢せし荀林父等と
やりし邲とふりて敬くに員軍しり
其後安年やいふ處少く齊と晋との大戦はり
此軍れ起りしを初晋より齊へ邲克とふ
太史と使し中りき(事)あり邲克敗り
り是ハ齊の頃公是とありて對面の時
幕れ陰に祭婦人よんせし知を歩けき

郟克大よ腹立く妙返^{へん}報^{ほう}せきらんまてハ
二夜^{ふたよ}河水^{かみづ}と流^{なが}る海^{うみ}に誓^{ちか}ま^えて其
海^{うみ}りけ敷^しか^ら系^{けい}布^ふよ魯衛^{ろゑ}乃^{のち}西^{せい}齊^{せい}月^{げつ}り
つる一^{ひと}めら^らまて郟克^{げい}よたよりて晋^{しん}に加^か勢^{せき}と
流^{なが}れハ郟克^{げい}あ^らま^まと^とお^りひ^を君^{きみ}成^{なり}公^{こう}乃
恭^{こう}と^と化^{くわ}よ^らら^らん^の是^{こゝ}大^{だい}将^{しょう}か^らあ^らう^く
祭^{まつり}向^{むか}て去^さ祖^そよ安^{あん}華^か少^{せう}く齊^{せい}の軍^{ぐん}に一^{ひと}戦^{せん}と
封^{ほう}賜^みく城^{じやう}下^げ子^しを推^{おし}介^け蕭^{せう}同^{どう}叙^{じよ}り女^{によ}
項公の母なり

出^いせと罍^{のろう}より項^{けい}公^{こう}と流^{なが}る一^{ひと}と^と賂^{らう}り
つこと國^{くに}のりつと魯^ろ衛^ゑに祭^{まつり}果^{くわ}見^{けん}か^らま^ま
海^{うみ}くと^と詭^{けい}言^{げん}よりつと晋^{しん}乃^{のち}軍^{ぐん}ハ退^{たい}き^きき^きり

人^{ひと}れ身^みを^を形^{かたち}の^の傲^お優^う侏^{しゆ}儒^{にゆ}
任言柳蔭者 兒との事乃^{のち}
類^{るい}知^ちらん^らん^ら者^{しや}の^の多^{おほ}く^くを^を貴^き人^{にん}
高^{かう}位^い内^{ない}人^{にん}姫^{ひめ}君^{きみ}小^{せう}と^とせ^せよ^よ女^{によ}乃^{のち}而^{しか}笑^{わら}と
何^{なに}う^うと^と口^{くち}惜^{せき}也^や思^{おも}ハ^ハ教^{けう}ハ^ハ河^かり^りと^とさ^さと
知^ちらん^らハ^ハ腰^{こし}乃^{のち}ぬ^ぬけ^けを^を流^{なが}れ^れと^とあ^ある

物乃月よ立倉さくははまいた賊と
士^{いんげん}さくらんまの城女のお菊とを海しき
事山そあふまのく郊亮ハ大回乃
帰太夫なふとや物る城か事
せられしは項公乃辛きめんとて
しを社わらめ又の用いしきと
たがふ士火乃身此上のるんくた
君れ心乃意とらさうたうひをれる

このにそあふははつれお治あり
戦^{せん}國の時よ趙^{てう}に平原君^{へいげん}とて連枝^{れん}あり
力^{ちから}乃士教ふ人扶持^{たすけ}け敷を耐^{たう}館の
何^{なに}うりれ賊^{てく}男^{おとこ}壁^{かべ}する者ありとて是
見^みららひて水汲めると平原君^{へいげん}自^{みづか}か
昔^{むかし}如^{ごと}女^{にょ}樓^{ろう}乃^の上^{の上}と茶^{ちや}是^{これ}とてんく知^しひはれ
彼^かの男^{おとこ}腹^{はら}を^をん^んと^と糸^{いと}く^く矢^やひ^ひ一^{ひと}女^{にょ}乃^の首^{くび}
結^{むす}つ^つんと^と帯^{おび}一^{ひと}く^く平原君^{へいげん}け^け一^{ひと}か^かふ

事として重よ御せ所りきいそ存ふ力
乃士日と遊く暇をてらるこくよ海り
け教平原君あまこいふと河をいふ
壁と知ひふる女の首絡りるゆふ
社堂中多れい平原君大よ強きいそ死
彼乃女れ首切つて壁の家よむりて
統をりしう父のいのちを士は多きうと
外り所違ハかゝ事いふ位乃人志

厚くはし〜みき海ふる事よ
あをあま

又案す教よ武田信玄り秘流よ思ひ
山本道鬼ハ行目乃壁足り山縣之斎藤ハ
缺口な案そ外名河ふる士よ行輪よの
多かり〜事和漢乃書に教くんえり
河多ハ名将ハ士乃智略膽勇とよん
詮議あつめ男れ〜思よ目はつき

治いさる一車れ島小よりて行輪
るは誠賞統一なる車とありて
不多百助の缺号男子とりよける
神祖寺より一山縣の魂苗家藩弟
百助の子に生きたる車は一版なる
なほそ大切小りりるを伴らま
車れんとも有しとや然るに何乃
代山と治世績きめは膽勇智略のる
い

うらねきそ行目に家継ちれ
缺に八君乃沖恭とせられし兵五君
振舞男よりれる乃に珍儀あるもの
心得ぬまといがらるるし
嚴有院殿乃沖代小と場敷ある士死
そそ強りそくあよ成りて武先人
あなを死く國乃初れ沖時ハ既進し祭
外換よ到るまで 沖城の邑、行目り

かたはれけ敷初齊乃桓公起り

莊王十二年より襄王九年まで二十九年の間 宋乃襄公 襄王十年より同十九年まで六年の間

晋の文公 襄王十六年より二十四年まで九年の間 秦乃穆公 惠王十八年

四つきて襄王二十一年卒む 楚乃莊王 頃王五年 五霸乃人

かゝるく、こり沛代七代 頃王五年 五霸乃人 頃王五年

九十四年之間朝家と翼戴し系しせし

此十六年に楚乃莊王卒せしは覇者の

そよと楚沛代きりしは絶たれし

抑楚乃遠祖と守るに帝嶺項の清られ

とを圖えし其末孫彌南楚周の文王

はくそよ成王の時其子楚繹よ子男乃地

き海らりて丹陽よ居るしめらる其後代

に迫きわらるれ小國をよよつあて大身と

故ありし十代乃孫懿適にありて人

ゆゑしめ王號と偕して自武王を称する

かんとしてよとありしはふし系又志と

中國とかきみりし其孫成王天子よ
お敵りし時南子夷弒乃礼弒乃中國
ごみごふかを勅命河を惠王 六年 河を
其時楚の地脱ふ千里少と及ひく其力
はよを齊桓晋文乃よよと河より石陵の
會城濮乃戦少と河よを弒乃礼弒乃
乃く許男と若しめ惠王 宋襄と擡す弒
なんぞふのまゝにやるまゝにやる

はま其頃乃人れ夷狄をりしんふるは
多きり申小を同ふと不は楚と社園をれ
世饒幸に及ひくを禮義の國といひる
中國を君弒弒し父を弒せふそのを人を
はして河をよをりしをりしをりし
世乃中にありしをり齊晋魯衛とをりめ
礼は賊子弒討せんす教人しをりしをり
迫り頃よを夷狄をいよめけり楚乃

成王は孫なり信莊王に覇王の政取あり
弟をその惜きはも一人を氏小と位よし
よもしきう反かりに仁義は似るるすれ
人さうかきつる世とあひかりそり
まゐく徳乃ふりてせん人れ何らま
世乃尊敬を天の果報もめそさうく
小とある去程は莊王回とりて
頃王 五年 三と語
の同日夜淫樂して諫めつらんまのい令

め何家つきそと回中よ觸らりける臣奉と
いふ賢人さ心とさうりて預くは隠詔つ
中さんそと三年とさひ又なるぬ多の作
是いふれ。鳥山やかりんちりきれは莊王
はくくあまときく三年とさひとやま時ハ
天よ沖らむそと子あつすもや其時ハ
人と敬馬りさんそ他奉無とそ得るそと
何りきれと色はあ政めんともんえりし只

蘇從といふ者又諫言中を汝の舎とききし
やど有し六所と殺しても君誠明らるに
せん事と社とそや中後よあて陰謀と
らるやめて誅する者數百人賞す孰者
數百人仲奉蘇從一政務をせむれ八國中
大に脱服ひかく多庸と威し舒と威し
宋成侯と兵車六百乘とを捕し碯潭乃
戎と伐く兵と洛陽を觀し陳を伐く

夏徵舒の君と弑せる罪と討し定王九年鄭と
攻落して鄭伯の隊人と取りて人よみり
をふと賞祝しと軍返けく禮とつと
定王十年宋成侯と乾城乃経侯つととらる
君をとりとて攻はらるけく和法とあり
も殺せんと定王十二年千乗乃四と賞れんと
擒縦する勢揃衝をのり河をへしと
覺は又兵に義をかりて進退與奪れ第よ

あつぬ事外と真似する人 見えたりなり

純才夏徴節と誅せしむるは、たいぎ大義を

得たりし天子此命ありしをあらね

尚付水と末代よも桓文よもはきそ五霸の

つよかそくは孰定王在位二十一年にして崩を

此御代よ君と弑せらる者二 鄭の公子歸生ハ靈公を

四と七と者六 陳夏徴節ハ靈公と弑を

周公伯嚭と政とありそい又王孫蘇召伯

毛伯と政と多ひと二人を殺しけるあんと

王室に乱ありと聞くと晋景公士會とありて

鎮せられ定王士會と饗饌と終りたり

士會饗饌ありに法きて王室に古實と聞

亦や思ひきん四よ帰りて古實の論議を

四政と執りけりそ初匡王此時歎ふ

太史我れ酒宴あつるをとりかけり

我ぞ不承ありしは時晋の祭太史瑕喜を

危りて申ありてを多敷我乃池乃とて
海を成劉康公又推りてと教く并切
らるる者孰晋の景公王室つづきを半
危りもなる中し曹乃公子負芻其
君宣公乃を子と弑して回押取ありしと
生捕く惣よあら罰おしめし京師り
送りて天子れ此をのひよまを糸くせし
車ハ伯討とて侯伯乃禮と得るなり

かふ奉公春秋乃代よをえとありし
車れりこれ定王いっふと嚴よ刑戮を
以て王法と正しりきよ其法は及ぶ
乃ち初る法成福れくしゆるありと
負芻に回継せを備ひをのり抑いれ
しとていひしやか法政何んが天中れ
共主とてたご成得る不慮ふつて人か
景公或時楚れし捕鐘儀といふ者とんて

楚國のるり同れしは應對のとき
をりぬりしは范文子彼の君子とんえの
ゆゑしあつてあ國乃好と結せ結と
中すめ楚よりしやして和法乃事と
いひ入りれは楚乃共王と同心ありけりかくて
景公卒をあり厲公乃代とありけりまも
宋乃華元跡取りちて和法そりひ
潰澤といふふしとてあ國乃太史會盟せり

楚乃子及極めて暖河しき者して共王と
はるの鄭より入る晋に背くを晋れ軍と
引出して鄢陵とて訓ふて軍して教くに
うらまけ共王と目と射て夜道に掛りて
引取けぬは晋十分の勝軍しとてあり
厲公が稱く驕侈成りて范文子馬の茶に
をぬらりし君と御卒若よれりし諸
太史皆不才なるに何とあかき勝軍

志事海へる少や爰と大事を戒めし
とそ中より教は進せ厲公乃身りら指を
心得ぬる多うり甚れは范文子ありん然ひ
け教悔りにか家出ん少きりよと固り
礼乃おあつてい何とくきせあつてつと
う紀りりんう祭早く一命めさ進り
か^そ祝宗^そして神とよ新くせけ教をた
禘^ひ新く文字ハ身まうりけるり年したるた

礼起り厲公弒せられりか^かと事要公乃
曾孫周よりつと迎へて固継せけ教をた
悼公^{たう}より^こ年^{ねん}僅^{げん}り十日歳成りつとされる
賞君少く入固乃初魏相士^き躬^こふと執政
せし其外少及祁奚^き魏絳^{じやう}張老^{ちやう}のれと子
名阿^あの侍^しと用ひらき^き一固改乃沙法
強^{ちやう}る^る初^しより^り禘^ひを^を晋^{しん}固^こ又^{また}大^{たい}に^に治^ちり^りせり
簡王在位十四年少^{すく}と^と爰^あ崩^{ほう}を^を此^こ時^{とき}代^{だい}り

君滅弒する者二 曹乃公子負芻ハ其君の世子と 晋此 欒書ハ厲公を弒す 四滅

滅する者一 楚舒庸 子靈王 名ハ世心 立晋の悼公 賢徳

河りて諸侯思ひつきて中國乃盟と云り

け終ハ楚れ共王共子康王れとて

争ハをれ齊魯宋衛と初东北方此諸國ハ

晋に方人し秦蔡と初西南乃諸國ハ楚れ

方人して西輪と云れく牛角此勢勝り

方りもなりとて一に立る鄭乃四此

何多らん方強かんはらんをえし一強よ

是滅つまんとして互よせり合をえたりたり

何多しと晋ハ君明よ臣忠よ一何國政能

治りしと上吳の國ハ架好と通し一け終ハ

之駕楚不能與争とて之反鄭一止馬有し

好ハ楚と相法く事ハ叶えたり紀何多しと

雞澤乃會せし時諸侯の揃ひと云れり

太又同士よ盟とて治又秦滅伐り數軍有り

太史とて命汝月いしをいふんと陪臣乃
權威けんい此盛あるし瑞とあり又楚と弱
のんそ呉と好と通し中國の諸侯と石
集と呉と會せし皆一なんと夫楚と中國
引入事教るの皆悼と此失とそ聞えし
絶りと六の今と楚と抑と王室滅尊ひる
其功先祖文公ふと多くハ方と所と海と
靈王何乃恩賞と外一齊の靈公ハ后乃

清里ありけはハとせる功とす紀と勅使
給りて庶名養乃命何りも教めんと心持
かつ紀と石とありしとそ中と事教

世乃成行と四季此のハ福とありし
おあありしと事とハ單乃端とそにと
身に留とひわつらひも教大熱乃
半と秋風此とそと一聲言とそとそ
表とそと終てと魂乃身にそひかぬ



周易に履霜 堅冰至 初九とあり
 多うせ及厚氷乃ちるる此遠きより
 何く汝と思ふと戒めを留めそのけ
 れきし乃ち一賞半級乃ち官加階を
 祖宗に定めたり是く武自坐るらん小は
 細紀乃ち久遠かん瑞と好うと礼を
 ま給く此儀ありて一人君乃ち忽小志あり
 命記事よりありてとて丁を控んし也

